



鳥東高通信

第176号
平成31年3月

編集・発行
鳥取東高等学校 PTA
鳥取県立鳥取東高等学校
印刷 日ノ丸印刷株式会社



3年間の思い出



「澁刺 颯 爽」(はつらつさっそう)

校長 尾室 真郷

ご卒業おめでとうございます。私が鳥取東高へ赴任すると同時に入学してこられたみなさんがもう3年の月日を経て巣立っていくと考えるとただ心に熱いものが溢れてきます。明日からはこの学び舎に集うこともないという寂しさが一層込み上げてきます。でもそれも仕方ないこと。卒業を迎えるにあたり最後に大切なことを伝えたいと思います。

人の思いには大きな力があり、心に描いたものは必ず具体化していく、心に描いたとおりの人生が出現していく、私は感じています。心の時代と今言われていますが、人の心とはそれほど綺麗なものではありません。その時に、卑しい心を持っていると、卑しい人生が現れ、反対に美しい心を持っていると美しい人生が訪れるのです。だから自分の人生を蔑ろにははいけません。人の心は自然に似ているといえるのです。言い換えると、人間の心は庭のようなものなのです。もしみなさんが自分の庭に美しい花の種を蒔かなかったなら、そこにはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、いつの間にか雑草のみが生い茂

ることになるでしょう。優れた園芸家は庭を耕し、雑草を取り除き、美しい花の種を蒔き、それを育みつづけます。同様にもし私たちが素晴らしい人生を歩みたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、そこから誤った思いを取り除き、そのあとに誠実な正しい思いを植え付けるのです。そしてそれを育て続けなくてはなりません。より良い人生を生きていくためには、心をきれいにして良いことを思い描くことがとても大切なことだとつくづく思います。では、どうすれば良いのか。簡単なことです。人の役に立つことを常に考え、社会のどこかを支える人間になってください。そうすれば必ず明るく輝き、魅力ある人物になれるのです。そうすることによって、あなたがいないと周りが困る人になってください。あなたと出会えて良かったと思われる人になってください。

澁刺颯爽(はつらつさっそう)という言葉があります。いつも気持ちをさわやかにしておく。いつも颯爽とした気分である。澁刺颯爽こそ、心の雑草を取り、心の花を咲かせるために、これからの時代に欠かせない必須の条件ではないでしょうか。卒業していくみなさんへ、このことを忘れないでほしい。



学年長 矢部 敦子 先生

卒業するみなさんへ

今からウン十年前、私も高校生でした。当時と今を比べると、違いとして一番感じるのは携帯電話の普及でしょうか。あの当時、携帯電話があれば、いろんな面で便利だったろうな、と思うことはあります。でも、もう一つ感じるのは、それに縛られてずいぶん窮屈な生活を強いられる、ということです。時間や場所におかまいなくいつでも相手とつながることができる、というのは便利な反面、自己中心的になってしまいがちです。今の世の中はとても便利になりましたが、反面、不自由さも増えているのではないのでしょうか…なんだか説教臭いことを書いてしまいました。

さて、いよいよみなさんは高校というゴールを切るわけですが、それはすなわち、社会に出る、ということとイコールとも言え、新たなスタートラインに立ったことになるのでしょう。社会に出れば、意外と不自由さを感じるかもしれませんが、自分らしさを見失わず、東高で培った多くの力で乗り切って行ってほしいと思います。20年後、素敵に成長したみなさんに会えることを楽しみにしています。この3年間本当に楽しかった!みなさん、ありがとう!!



拝啓—281人の若人たちへ—

3年生のみなさん、卒業おめでとう。3年前に鳥取東高校という学び舎に集い、今新たな世界へと翔こうとする君たちと出会えたことは、私にとって大きな「宝」の一つとなりました。君たちは私にとって「教え子」というだけでなく「母校の後輩」という存在でもあるので、言葉にはできない特別な何かを感じます。3年間の付き合いとはいえ、振り返れば「アッ」という間でした。受験という大きな壁に向かっていながら日々成長する君たちの姿を間近で見させてもらったことは嬉しい限りでした。その機会を与えてくれたことに、まずは御礼を言いたいと思います。ありがとう。

さて、晴れの日を迎えられた現在の心境はいかがなのでしょう?3年間を乗り切ったという達成感?勉強から一息つける安堵感?濃密な時間を共に過ごした人たちから離れることになる寂寥の思い?きっと様々な感情が入り混じった、一言では言い尽くせない思いでしょうね。一つの区切りを迎えるということは、自分の気持ちと向き合って、これまでを振り返り、自分の現在の立ち位置を確認し、これからどこに向かうかをプランニングする絶好の機会です。「卒業」を迎えた今、君たちは何から卒業し、どのような新たなステップに足を掛けようとしているのか、客観的に自分を見てほしいと思います。

高校という守られた環境から巣立っていくみなさんにとって、これからは「自分」というものが大きく試されます。つまり、他でもない自分自身が道標になるのです。高校で培ったものをしっかりと活かし、どうぞ「自分が目指すもの」を掴みに翔かれることを期待します。自分が成し遂げてきたこと、自分の現在の立ち位置を見失うことなく、毎日を全力で生きて、自分の「揺るぎない軸」を作り上げてください。そうすれば、あなたが目指す「自分」は、逞しく形作られていきます。

Your Destiny Lies in Your Hands…卒業生281人に幸あれ!

敬具



1組担任 岡本 尚也 先生



新たな門出にあたって

ご卒業おめでとうございます。力一杯走ってきた東高での3年間を終えたみなさんは、この先に待ち受けている未知なる世界に大いに心躍らせていることでしょう。みなさんより多少は長く生きている私から、一つはなむけの言葉を贈るとすれば、それは「何でもやってみる楽天性」を持つてほしいということです。

「楽天」とはラテン語のオプティムスoptimus(最善の意)に由来し、世界や人生の価値を肯定的に認める立場を指します。人生にはもちろん苦しさや辛さもありますが、「止まない雨はない」です。雨は「恵みの雨」だと考えることもできます。物事を肯定的に捉えることで道は開け、様々なチャレンジがあなたを強く大きく成長させるはず。たとえ失敗しても「失敗は成功の基」、次に生かせばよいのです。失敗よりやらなかった後悔の方がもっと悔やまれますよ。それぞれが東高で培った力を発揮し、新しい世界を切り開いてくれるものと期待しています。

みなさんと3年間を共有できて、本当に嬉しかったです。どうもありがとう。それでは、再会の日を楽しみにしています。



2組担任 中野 美紀 先生

ご卒業おめでとうございます

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんを1年生の頃から見てきて、勉強、部活動、学校行事、その他の様々な教育活動に本気になって取り組み、心身ともに成長していく様子を見守ることができて大変嬉しく思います。3年生になると進学・就職のために、人生でこれほどまでに勉強したことがないのではというくらい勉強しましたね。センターまで280日あったのが、100日を切り、30日を切り、あっという間に1年間が過ぎ去りました。プレッシャー、ストレス、疲労、様々なことで苦しみ、また就職の生徒にとっては、クラスメイトが学校祭モードになっている中、試験の準備をするという苦しさがあったと思います。でも、今こうしてすべてを終えてみて、どうでしょうか。誰にとっても成長、学びがあったのではないのでしょうか。どうやったらうまくいって、どうやったら失敗したのか、どうやったら大事な場面で緊張がほぐれ、集中モードに入れるのか、今後大事な場面に直面することが必ずあるが、どのような努力をすればうまくいくのか。すべてはみなさんがこの3年間で学び、そしてヒントを得ているはずです。この3年間いろんな場面で学んだことを生かし、今後より満足度の高い生活を送って欲しいと思います。みなさんが今後どのように活躍していくのか本当に楽しみです。また近況を教えてください。3年間ありがとうございました。



3組担任 谷口ひとみ 先生



卒業おめでとうございます

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。

高校三年生という「一年間」はみなさんにとって、特別な一年だったのではないかと思います。進路について、自分の将来について、今までになく考え迷った一年だったでしょう。一年生、二年生の時とは比較にならないくらい勉強をして、勉強が面白いと知ることでもできた一年だったでしょう。一生懸命、練習に励んだ部活動も最後の大会を経験し、引退という終わりを迎えた一年だったでしょう。この一年間は、ある「濃さ」を持った時間であったに違いなく、みなさんにとって紛れもない「分岐点」であったのではないかと思います。その大切な時間をみなさんと過ごせたことに感謝し、とても幸せであったと感じています。

この先、みなさんの前にはいくつの分岐点があるのでしょうか。

それは進んでみなければわからないことですが、みなさんなら必ず最善の努力のもとにより良い選択をしていくものと信じています。知識と教養と、そして高い志によって。

またいつか会いましょう。



4組担任 徳田 千春 先生

卒業おめでとうございます

3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。2年前、東高に来て初めてみなさんに出会いました。あの頃は幼く見えたみなさんも、卒業を迎え、少しずつ頼もしい顔になってきたように思います。みなさんはとても人懐っこく、一緒にすごしていてとても楽しかったです。そして、みなさんからたくさん元気をもらいました。長かったように短かった2年間でした。

これからみなさんは、それぞれの道を進むことと思います。期待と不安が入り混じっているかもしれませんが、勉強に部活動に、高校生活を一生懸命頑張ったみなさんなら、この先何があっても大丈夫。どんなことも、自分には関係ないと思わず、一生懸命取り組んでみてください。もし、悩んだり不安になったりするようなことがあれば、高校時代の友達を頼ってみてください。私の同級生もいろいろな場所でいろいろな仕事をしていますが、友達が頑張っているから自分も頑張ろうと思えます。たまに連絡を取ってみてください。私も影ながら応援しています。たくさん元気と思い出をありがとう。



5組担任 古田 千草 先生



夢は大きいほうがいい

「夢は大きいほうがいい。」「どうして?」「見失わないから。」

誰かの言った言葉です。入試という貴重な経験を振り返って、今何を感じていますか? まだ途中だという人もたくさんいると思います。こんなことなら1・2年の時に、もっと勉強しておけばよかったと後悔したかもしれません。でもこれは、1・2年の時にさぼったのではなく、今ならそう思える自分に成長したのだと思います。結果に納得できず、もう一年チャレンジしてもいいです。このまま進み、この経験を次に生かしてもいいです。

夢は、変わるかもしれません。進んだ先で新しい道が見えてくることもあります。身近な目標が見つかることもあります。他人から見れば小さな夢かもしれません。大切なのは、毎日、今この時をがんばることのできる夢を見失わないことです。しっかりと自分の道を歩いて行ってください。数年後にどこかで、ばったり出会ったら、どんな道だったかをちょっとだけ教えてください。その時を楽しみにしています。それでは、また。



6組担任 木村 憲之 先生

ご卒業おめでとうございます

みなさんと出会ってから今日までの2年間、本当にあっという間でした。特に理数科のみなさんには2年間担任として関わることができ、とても幸せな時間を共有させていただきました。東高での3年間はどうか? 部活動、学校行事、受験勉強に完全燃焼できましたか? 私は、今やらなければならない事をいくつも抱えながら奮闘していたみなさんの姿に、いつも感心していました。そして、みなさんの笑顔と涙と心の成長をたくさん見ってきました。東高での様々な経験が、これから先何があろうとも「何とかなる」と思える自信になるでしょう。

今世の中は、10年前にはなかった職業が将来なりたい憧れの職業になり、多くの仕事がAIに取って代わられるだろうと言われている時代です。この先10年後、どのような時代になっているか想像もつきませんが、将来「何になりたいのか」よりも、「どうなりたいたのか」ということが大切になるのではないかと思います。まずは自分が選択した道をしっかりと歩んでください。一つのことに捉われない柔軟で多様な思考と、しなやかな心を身に付けましょう。そして周囲の人を思いやり、人との繋がりを大切にしましょう。では、予測不可能な未来への旅の始まりです。みなさんの健闘を祈ります。



7組担任 浅田 有希 先生

1年生

冬季高原教育

1年生は、2月6日～8日の3日間、
冬季高原教育で氷ノ山へ行ってきました。

スキーの楽しさ

私は、この冬季高原教育でスキーの楽しさを改めて知ることができました。私は今までにも何度かスキーを経験したことがありましたが、今回あのチームのメンバーとインストラクターさんと一緒に3日間スキーをしていく中で違った楽しみ方を見つけることができました。たとえば、曲がり方1つ取ってもいろんな方法や力の入れ方があることです。そんなふうになにげなくしていた動作1つ1つについていろいろと知っていくうちに、スキーをすることがどんどん楽しくなっていきました。また、私はインストラクターさんが開校式と閉校式で言われた「スキーは1回覚えたら大人になってもずっと楽しむことができます。」という言葉が心に残っています。私はこの冬季高原教育でスキーをたくさん楽しむことができました。だからこそ、この楽しさや学んだことを忘れずにこれからもずっとスキーを楽しんでいきたいと思います。

1年6組 樋引 菜々穂

冬季高原教育を通して

1年7組 小林 晴

今回の冬季高原教育では、天候が心配される中、初日は快晴でとてもいいスタートとなりました。

僕たちの実習班では、全員が全く同じレベルということではなかったですが、上手く滑ることができない人がいたら声を掛けあったり、上手く滑れるようになったら褒めあったりしながらスキーを楽しむことができ、これまで話したことがなかった人とも仲良くなれたと思います。

宿舎ではそれぞれに与えられた役割を考え、集団行動というものをいつもより意識しながら生活できました。スマホを使うことができない中、友達と話をしたりしながら友情を深めていくことができました。

全体を通して、いつもと違う環境だからこそ得られたこともあり、学校での教育とは違う面で、僕たちは大切なことを学ぶことができたのではないかと思います。これら全てを計画してくださった先生方をはじめ、温かく迎えてくださった各宿舎の方々、手厚く指導してくださったインストラクターの方々など、たくさんの人にお世話になりました。ありがとうございました。

2年生 理数科 課題研究発表

2年生理数科が自分たちで研究テーマを設定・選択し、1年間をかけ、少人数のグループで研究を行ってきました。1グループ10分間の発表と、5分間の質疑応答となります。10班を2グループに分け、各グループから2班ずつ、以下の4班が本選へと進みました。

* 1月22日(火)校内予選 * 2月5日(火)校内本選
* 2月17日(日)鳥取県高校生理数課題研究等発表会(米子市)

校内本選

ビー玉 de 集団行動

飯田 健太・坂本 悠太・清水 基哉
白岩 直希・山田 健人



1年前、近隣の小学校の運動会練習を見てある疑問を持った先輩がいた。「集団行動はなぜぶつからないのか？」その疑問が実験をスタートさせる鍵となった。人をビー玉に置き換え、傾斜を幾つも作り、お互いがぶつからず交差するにはどうすればいいのかを考えた。このように交差をするためには、放たれたビー玉の速さ Vm/s に対して2個目のビー玉をどれだけずらして放てばよいかというビー玉間の距離ととの関係を、実験を通して確かめることができた。

・校内本選 優良発表賞

結晶の壁のぼり

小椋 文洋・乗原 司・徳安 慶樹



昨年の先輩方の発表に私たちは興味を持ち、引き継いで今年も研究をした。

今回は、前回の発表における実験方法の問題を解決した上で、新しく壁のぼりと液体の濃度との関係に着眼点を置いた実験を行った。

・校内本選 優良発表賞
・県発表会ポスター発表の部 優秀賞獲得!!



古砂丘の砂の研究(Epilogue) —なぜ砂は固まるのか—

有田 怜・岡山 彰吾・砂場 悠太
橋川 蒼生・廣岡 賢



過去の先輩方の研究では、「粒度」の個体、「砂による郷土変化」、「個々の砂粒の表面や火山灰性の物質が含まれていること」などに着目して研究がなされたが、私たちは、砂粒同士がどのように結着しているのかに焦点化し、これを今回の研究の目的とした。実験によって、古砂丘砂は砂粒同士の間に粘土鉱物が入り込むことによって砂同士が結着することで、強度が増して固まっていることを確認した。

・校内本選 優秀発表賞

コーヒーを使用した キクラゲの菌床栽培について

黄金 咲希・千村 詩織・西尾 桜花・林 遥伽



現在、鳥取県では「きのこ王国」を目指した取り組みがなされている。鳥取県はキクラゲ生産量が全国6位であり、さらに上位の生産量を目指している。しかし、菌床に用いる広葉樹のおが粉についてはその大半を高知県などに依存しているので、生産拡大にはそのコストが問題となっている。そこで私たちは鳥取県のコーヒー消費量が全国2位であることに着目し、コーヒーを抽出した後の粕(以下「コーヒー粕」と呼ぶ)を使用したキクラゲ栽培を行うことにした。おが粉とコーヒー粕の割合を変えながら実験したところ、コーヒー粕でも栽培できることがわかった。

・校内本選 最優秀発表賞

他にもたくさんのチームが様々な研究を行いました!!

- 「抗菌ライフ with 貝殻」
- 「スペクトルの観測」
- 「手話の翻訳プログラム」
- 「水の跳ね返り」
- 「甘いミニトマトをつくろう~水耕栽培~」
- 「鳴砂の研究 Revival -鳥取の鳴砂の出で立ち-

ごあんない

吹奏楽部一年間の総力をOB・OGの皆さんと共に作り上げる定期演奏会!
ぜひご来場いただき、その迫力・楽しさをご体感ください!

鳥取東高等学校 吹奏楽部 第46回 定期演奏会

■ 2019年3月31日(日) 14時 開演 ■ とりぎん文化会館 梨花ホール 入場無料

□ 曲目紹介

【第1部】・2019年度 吹奏楽コンクール課題曲

- ・酒井 格 作曲「ていーだ」
- ・ディスコキッド 他

【第2部】・ダンシングレボリューション

- ・J-BEST 2018
- ・銀河鉄道999
- ・はじめてのおつかいメドレー

11月以降の各種大会結果

○柔道

平成30年度全国高等学校柔道選手権大会鳥取県大会
(12/15~16)

- 男子団体 優勝 (全国大会出場)
- 73kg級 岡本 康佑(2-5) 2位
- 81kg級 小林 晴(1-7) 優勝 (全国大会出場)
- 無差別級 小林 岳(2-1) 優勝 (全国大会出場)
- 無差別級 塩谷 文(2-2) 2位
- 無差別級 南部 耕佑(2-6) 3位

○バスケットボール

平成30年度鳥取県高等学校バスケットボール新人大会
(1/12~14)

- 男子 ベスト8
- 女子 4位

○バレーボール

平成30年度鳥取県高等学校新人バレーボール大会
(1/18~19)

- 男子 4位 (中国大会出場)
- 女子 予選リーグ敗退

○ソフトテニス

第44回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会
中国地区予選会(1/18~20)

- 男子団体 2位リーグ戦敗退

○卓球

第46回全国高等学校選抜卓球大会鳥取県予選会
(12/15)

- 男子団体 予選リーグ敗退

○水泳

第39回鳥取県室内選手権水泳競技会(12/9)

- 男子個人
 - 大崎 海翔(2-1) 200mバタフライ 2位
 - 本田 航平(2-1) 200m平泳ぎ 1位
 - 最優秀選手** 100mバタフライ 1位
 - 100m個人メドレー 1位
 - 猪山 智久(1-3) 100m背泳ぎ 4位
 - 50m自由形 6位
 - 大西 翔(1-3) 100mバタフライ 3位
 - 400m個人メドレー 1位
 - 田中 海地(1-4) 100m平泳ぎ 1位
 - 200m平泳ぎ 3位
 - 細田 賢汰(1-6) 100m背泳ぎ 5位
 - 200m背泳ぎ 6位

- 女子個人
 - 岸本 麻央(2-4) 400m個人メドレー 2位
 - 200m個人メドレー 2位
 - 内田 英里(2-5) 100m背泳ぎ 3位
 - 200m背泳ぎ 6位
 - 小西 乃愛(2-6) 100m平泳ぎ 4位
 - 200m平泳ぎ 4位
 - 奥田 虹聖(1-3) 50m自由形 4位
 - 100mバタフライ 4位
 - 吉村 奈緒(1-4) 100m平泳ぎ 5位
 - 200m平泳ぎ 5位
 - 山本 菜月(1-6) 100m自由形 2位
 - 200m自由形 3位
 - 森田 紗和(1-7) 100m自由形 6位
 - 200m背泳ぎ 5位

第36回島根・鳥取両県対抗水泳競技会(2/3)

- 男子個人
 - 大崎 海翔(2-1) 200mバタフライ 3位
 - 本田 航平(2-1) 200m平泳ぎ 1位
 - 200m背泳ぎ 1位
 - 200m個人メドレー 1位

- 女子個人
 - 岸本 麻央(2-4) 200m個人メドレー 6位
 - 小西 乃愛(2-6) 200m平泳ぎ 4位
 - 山本 菜月(1-6) 100m自由形 2位
 - 200m自由形 4位

○演劇

第56回中国地区高等学校演劇発表会(11/24~25)

- 中国高等学校演劇協議会会長賞
- 平成30年度鳥取県東部地区高等学校演劇新人発表会(2/2)
- 出場

○書道

第50回県高校書道展(12/12~14)

- 西尾かの子(2-3) 連盟賞
- 杉森 香音(2-3) 連盟賞
- 藤原 七海(2-7) 連盟賞
- 西尾かの子は 平成31年度全国高等学校総合文化祭出品

○吹奏楽

第41回全日本アンサンブルコンテスト鳥取県大会
(12/16)

- 木管三重奏 銀賞
- クラリネット四重奏 銀賞
- サクソフォン四重奏 銀賞
- 金管八重奏 銀賞

○将棋

第27回全国高等学校文化連盟将棋新人戦
中国地区選手権(12/15~16)

- 澤田 涼風(1-3) 出場
- 栗原 司(2-7) 出場
- 石破 京介(1-1) 出場
- 辻 佑也(1-4) 出場

第27回全国高等学校文化連盟将棋新人戦(1/31)

- 澤田 涼風(1-3) 出場

2018.11.21.wed 《「性と人権を考える」講演会》 「じぶん、まる！～じぶんでいいよ。 ひとりじゃないよ。～」



講師 にじいる i-Ru (アイル)

田中 一步さん
近藤 孝子さん

11月21日に、PTA健康・生活部と人権教育部の共催で「性
と人権を考える」講演会を開催しました。にじいるi-Ru(アイル)
という団体から田中一步さんと近藤孝子さんをお招きし、1年生
全員と保護者とお話を聞きました。

LGBTや性に関する問題というとしんどそうに感じていた
が、田中一步さんが自らの生い立ちや経験をもとにわかりやすく
話をしてくださり、私たちも生徒たちもお話に引き込まれていき
ました。その中で一番印象に残ったのは「自分は自分でいいんだ
よ。」「相談できる人は必ずいるから一人じゃないよ。」というこ
とでした。

これからは今まで以上に多様な生き方を大切にしていこうと
求められる社会になっていくと思います。私たちもこのような研
修の機会を通して理解を深めていきたいと思っています。

(人権教育部/永島 有樹)



人権こらむ 虹のしっぽ

子どもが東高に入学し、何か役員をしないと
いけないなら、仕事でも役に立つかもしれない
から…と思い、人権教育部を第1希望で申し込
み、役員をさせていただくこととなりました。

人権教育部として、平成30年11月17日～18日
に行われた「全国人権・同和教育研究大会 滋
賀大会」に参加しました。

人権教育と言えば、私たちの時代は「部落差
別」のことを主に学んだ時代でした。大会に参
加してみると、部落差別問題以外にも人権を確
立するまちづくりや教育のことがテーマとなっ
ていたり、障がい者雇用のことがテーマになっ
ていたり…と様々でした。

参加した時期は、ちょうど障がい者雇用の職
員の方との関わり方について悩んでいた時期で
した。色々と言葉を選びながらコミュニケー
ションを図っていましたが、うまくいなくて
悩んでいました。様々な報告を聞かせていた
だき「障がいの方だから」という見方を私自身が
しており、職員さん自身を見ようとしていなか
ったのかな、区別していたのかな…と反省しま
した。会場の近くの琵琶湖も見ることができ、心
身ともにリフレッシュできた2日間でした。貴
重な経験を今後も生かしていきたいと思っています。

*人権こらむ「虹のしっぽ」について

虹にしっぽなんてあるわけないと決めつけてないで…。もしもある
なら見つけてみたい。考えるだけで楽しい気分になりませんか？



親として大切な事

三年保護者 富山 千春

私は、子どもの為に、親として何が一番大切なのかと感じ、本の中で考えてみました。

その中で「自立した心」「感謝する心」「自分で道をひらいてゆく子」と書いてあるのが気に入り、日常と照らし合わせながら、考えていきました。

「自立心」を育てるといふのは、幼児の頃から、自分の出来る事は、自分でさせていくという風に書いてありました。幼児の頃から、自分でさせていくことが大切、手を出さず、子どもを待つてやる姿勢が大切のようにです。「感謝する心」から、思いやりが生まれ、人の立場を尊重する行動、共に幸せに生きようという道にもつながるようです。この気持ちも親が幼児の頃から、何かもたらたら、「ありがとう」と子どもに教え、育てていく方が良いでしょう。「自分で道をひらいていく」とは、「子どもが転んでも待つ」という体勢が良いようです。

子どもは、自主独立の精神を身につけていくようです。そして一人前になると、自身の判断に任せ、自己判断の力が養われるようです。自由にしておいても、行動を誤る事が少ないようです。私には、高三(男)、中三(女)、小五(男)の子どもがいます。が、平等にしていたのか、男女で自分の態度が、変わっていたのかもしれません。

女性であれば、少し周りに気遣い、心遣いが出来るように思い、きつく対応していたのかも知れません。

中々、私自身今も周りの方を見て、色々勉強させてもらっていますので完璧ではありませんが。今、子どもに一杯してやれる親でいたいと思います。子どもが行きたい高校、大学を応援してやるしかありません。子どもが悔いのないように、自分の人生を歩んでくれるよう願っています。

三年間の東高生活、おつかれ様でした。自分にとって、楽しく有意義な生活をして、最高でした。良い出逢いを忘れないでください。

卒業する君へ

三年保護者

「東高に行きたい。」

そう決心した君は、勉学に励み、晴れて東高生となった平成二十八年四月。それから三年の月日が流れ、早くも卒業を迎えることになった。

毎日、毎日、宿題と部活に追われ、自分の情けなさに涙を見せることも多々あったが、よき先生、学友に恵まれ、人生のうちのたったの三年間ではあったが、東高での青春を謳歌している君の姿を見ながら、親である私も共に成長してきたことが実感される。

「平成」というひとつの時代が終わりを告げ、新たな時代が始まるこの年、君は社会へと大きく羽ばたいていくこととなる。

今後、幾多の困難にぶつかることもあり、また、逃げ出したくなることもあると思う。

そんな時こそ、東高で培った、「克己」「親和」「進取」を心の糧として、自分の夢を追いつけて欲しい。

最後に、「ありがとう」の言葉を贈りたい。

『今年の漢字は...?』

三年保護者 綾木 知子

年末になると毎年「今年の漢字」が発表されますが、ふと「我が家の今年の漢字は？」と家族で話したところ、やはり「野」になりました。

三年前、高校進学の際、我が子の「東高で野球がしたい」という気持ちに迷いはなく、念願の東高に合格！入学後は毎日ひたすら練習。夜、真っ暗な道をヘトヘトになりながらも自転車帰りで帰宅し、爆睡の日々。待望の野球中心の高校生活も今、振り返ってみれば、充実すぎてあつという間の三年間だったように思います。

また、高校野球を通して心も体も大きく成長したなと感じます。色々な方の支えや自分だけではへこたれてしまいそうなことも仲間の励ましのお陰で乗り越えてこられたのだと感謝しています。

甲子園出場！という夢は叶わなかったけれど、高校野球で完全燃焼し、次は大学進学という新たな目標に向かっていく我が子に、親としてただ見守ることしかできませんが、どんな道に進もうとも一番の応援団でありたいと思っています。久しぶりに？机に向かって勉強している姿を目にして、野球で培った最後まであきらめない気持ちや、努力したことはいつか必ず結果として表れることを信じて頑張つてほしいと思っています。

三年間を振り返って

三年保護者 井上 茂

娘がお世話になった東高での学園生活も、早いもので三度目の春を迎えようとしています。

東高に入学したら、中学時代から

伝えられる僅かなこと

二年保護者 小椋 誠

子どもが十七歳になり、「随分しっかりしてきたなあ」と思うことが多くなった。将来のことを子どもなりに真剣に考えているように感じる。

自分が十七歳のときどんな風だったか、何を覚えて日々暮らしていたか思い出そうとしてみたけれど、あまり鮮明にならない。恐らく「先のことはどうにかなるだろう」あるいは「誰かが何とかしてくれるだろう」などと考えて、のほほんと暮らしていたのではないだろうか。バブル前だったし、日本の未来も洋々としていたように思っていた。

三年保護者

三年間を振り返って

あつ！あつ！合格！

夢みた念願の東高の合格でした。早いもので歓喜からもう三年。部活・学業との両立。毎日大変で、弱音を吐く事もしばしばあったけど、常に前へ前へと、ポジティブに考えて進む我が子。本当に感心させられました。

一時期、学業優先から部活を辞める事も考えました。しかし、温かい仲間・先輩・後輩・先生方に恵まれ、理解のもと最後まで頑張つて引退。今では、娘の財産と宝物です。

東高で多くの経験をさせていたのだと思います。本当に幸せな高校生活だったと思います。これからの人生も、山あり谷ありの道を歩みますが、労を幸に変えて進んでくれると思います。

頑張れ！。そしてお疲れ様。

鳥東高通信176号に写真、原稿等でご協力いただいたみなさまに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

文化広報部一同

祝 卒業 平成30年度卒業生

